

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

● 第 5 次行政改革大綱第 1 次アクションプランとの関連	
☐ 有	
☒ 無	

1 ■ 事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	集会所建築等補助事業（主要事業）									
1 - 2 担当	部	市民部	課 又は施設	市民協働課	係	市民活動推進係	評価票作成者	市民活動振興担当係長 伊藤孝士		
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	交流と市民参加				基本施策	コミュニティ		コード	5—1—3
		「市民と行政が尊重しあう協働のまちづくり」				単位施策(中)	コミュニティ活動の支援		コード	5—1—3—1
	項	参加と協働				単位施策(小)	施設整備の支援		コード	5—1—3—1—1
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	集会所建築等補助金を必要とする区・町内会の数			意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		補助金を交付し、地域コミュニティの拠点としての集会所施設が整備される。			
1 - 5 事務事業の内容	区または町内会が行なう次の集会所建築等の事業に対して、90%の事業費補助を行なう。 新築、改築、増築工事は上限4,500万円（町内会は3,000万円） 用地整備工事は、上限500万円（新築時のみ） 改修工事は、上限300万円 用地取得は、上限3,000万円（300㎡まで）など									

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識		事務事業実施にあたって心がけた改善の取り組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識			
	平成18年度	集会所建築等の事業要望を早期に把握すること。			本市には行政が設置・管理するいわゆるコミュニティセンターはなく、すべて地元が設置・管理する集会所である。			地域コミュニティの拠点として、集会所の整備を求める声は大きく、補助金を交付することは重要である。			
	平成19年度	〃			地元が管理する集会所の老朽化が進んでおり、改修要望が多くなっている。			〃			
	平成20年度	次年度より数年間は補助金が凍結となることから、今後の改修要望の見通しを立てるため、アンケート調査を行った。			〃			〃			
	平成21年度	本年度より当分の間凍結となったが、風水害による緊急修繕の要望については適宜対応した。			〃			〃			
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											
2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	町内会・自治会加入率（％）				85.0（％）	90.0（％）	市内の全世帯数のうち、実際に町内会・自治会に加入している世帯数の割合。				
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成 1 8 年度	平成 1 9 年度	平成 2 0 年度	平成 2 1 年度	平成 2 2 年度	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度
	活動実績 a（単位）	11（団体）	11（団体）	7（団体）	4（団体）						
	直接事業費 b（千円）	29,761	52,681	7,280	813						
	人件費 c（千円）	320	320	320	160						
	合計コスト d（b＋c）（千円）	30,081	53,001	7,600	973						
	単位コスト d / a（千円）	団体当たり 2,735	団体当たり 4,818	団体当たり 1,086	団体当たり 243	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり
アウトプット実績（活動数値）の補足説明		年度内に集会所建築等補助金を受けた区・町内会の合計数（団体） 人件費 3,200円 × 20日 × 5 時間 = 320千円 人件費 3,200円 × 10日 × 5 時間 = 160千円									

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に 対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（％）	79.6	79.6	79.0	80.0						
	後期目標値 に対する達成度（％）	88.4	88.4	87.8	88.9						

3 ■ 事務事業の自己評価結果

３－１ 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度 担当課評価	A	A	B	B						

- ４段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

３－２ 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	補助率及び限度額の妥当性と施設維持管理費の必要性の検討	現状維持	財政状況が許す限り、現状を続けたい。
	平成19年度	〃	財政状況を鑑みながら、今後も拠点整備を支援し続ける策を検討していく。	本年度は1会館を新設することができ、当該地区のコミュニティ活動の拠点を整備することができたのは大きな成果であった。
	平成20年度	今後ますます地域コミュニティが地域課題解決のために果たすべき役割は増えていくため、拠点整備が必要となる。 財政状況も鑑みながら制度の見直しを進め、再開を目指していく必要がある。	次年度、本補助金は休止する。全集会所の利用状況を調査し、新たな制度の検討を行っていく。	次年度からしばらく休止するため、地元理解を求めた。
	平成21年度	財政状況も鑑みながら制度の見直しを進め、再開を目指していく必要がある。	緊急修繕については可能な限り対応することとし、再開後の制度について引き続き調査研究を行っていく。	補助金休止の説明をし、納得していただくことができている。
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

４－１ 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	B	拠点の使われ方のフォローアップが求められる。また、今後は緊急かつ必要なものを精査した支援をしていくこと。
	平成20年度	B	今後の補助のあり方について検討すること。
	平成21年度	B	予算凍結解除後の補助金のあり方について検討すること。
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		